

# 道 徒 の 聖



一九五八年三月十七日第三種郵便物認可(毎月一回一日発行)  
第二号  
一九五八年十月一日発行

聖徒の道

一九五八年三月十七日  
第二種郵便物認可第二卷第十号  
一九五八年十月一日発行

発行所  
編集人

ポール・C・アンドラス

発行所

末日聖徒イエス・キリスト教会  
北極東部伝道部

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

# 大管長メッセージ

デビッド・オ・マッケイ大管長



## 家庭

について考える

両親はその子供たちの先に立つて教養を発達させ、いろいろな質問に喜んで答えて見せなくてはならない。今いろいろな質問をしている子供は、あなたの生活に幸福を与えているのである。その子供の為になる遊びを奨励するために時々仕事をそのままにしておくことができ、または自然の研究に教時間を過すことのできる両親を持った子供は仕合わせなるかな。

もしもあなたが欲するならば、家庭は生活の泉であり、また今日われわれの有っている社会状態の出でくる泉である。

末日聖徒たちはその家庭をそこなわないように保ち、その子供たちにイエス・キリストの福音の原則を教えよと要求するは神の霊感である。

天にましますわれわれの父が人類に授けたもうことのできる最も貴い賜物は、永遠の生命の次に子宝である。

私は、家族関係の神聖さと永続性とに就いて神がその民に与えたもうた教えに対して神を讃めたてまつる。これらの教えを、われわれの子供たちの心に強く刻みつけようではないか。

神を信ずる信仰、この世の最も主なる御子を信ずる信仰、わが教会の組織を信ずる信仰を教え込む秘訣は家庭にある。それが一点に集まっているのは家庭である。

人類の社会的政治的生活に見られる最高の理想、すなわち人は他人の権利と特権とを侵害しないかぎり完全なる行動の自由を有するということを教える世界中で一番良い場所は、すなわち家庭である。

家庭を造り上げる技術とは、美しいもの、真正なもの、徳にかなうものなどを本能的に愛し、みにくいもの、偽りであるもの、卑しいものなどを同じく本能的にいみきらうように彼らを導く霊の気高さを、子供たちの生活の中へ植えつけることを言う。

われわれの國家の安全を保証する眞の源は、秩序があり、正しく管理された家庭にある。

家庭は愛によつて永続させられる。

服従は天の第一の律法であり、またそれは家庭の律法である。家庭の中に服従、すなわち肉體の力によつて得られる服従ではなくて、愛という神聖な要素によつて得られる服従がなければ、家庭の中に本当の幸福

## からし種は大きく成長する



伝道部長 ポール・シー・アンドラス

約二千年以前、救い主が地上にましました時、救い主は天国を「からし種」にくらべて（マタイ伝十三章卅一―卅二）自ら創立したもうた教会組織の偉大なる行末のさためをお知らせになりました。

「からし種」は蒔かれた時格別小さな種でありますが、ついにはあらゆる植木のうち最も大きく成長するのであります。今日もその通りであります。末日聖徒イエス・キリスト教会は今や急速に大きくなりつつありまして、いつか世界で最も強力な組織となるにちがいありません。

救い主はまた天国を大量のねり粉の中へ入れるパン種におたとえになりました。（マタイ伝十三章卅三節）。このパン種の働きによってついに全部のねり粉が発酵いたします。今日もその通りであります。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はみな現在教会外の人々と接触してこの人たちに感化を及ぼし、この人たちの生活を覚えて神の眞の教会へ入れて居ります。このようにして教会につれて来られた人たちは順次にほかの人たちを教会につれて来ます。このようにして、全部のねり粉が結局発酵するにちがいありません。また救い主は天国を畑に隠された宝におたとえになりました（マタイ伝十三章四十四節）。或る人がこの宝を偶然見つけたとき、その人は畑を買ってこの大きな宝を手に入れることができるために、出て行って持ち物をとごとく売りました。次の文章の中で救い主

は天国を一つの高価な真珠にたとえておいでになります（マタイ伝十三章四十五節―四十六節）。良い真珠を見つけ、すぐに行って持ち物をとごとく売ってこの真珠を買いました。今日もその通りであります。イエス・キリストの福音を理解することは、どんな物を持っているよりも偉大な価値があります。イエス・キリストの福音を理解するようになる人は、誰でもみな福音の中にある数々の祝福を得るためにとごとく持ち物を喜んで犠牲にするべきであります。これは、畑に居た人がしたように偶然福音を見出そうが、あの商人がしたように探して求めていたから福音を見出そうがどの場合にも本当であります。あなたはどのようにしてイエス・キリストの福音を理解するようになりましたか。思いもよらない事情の結果としてですか。あなたは福音の中にある数々の祝福の代りにとごとくの持ち物を喜んでぎせいにいたしますか。

幸いにも、或いは不幸にも、あなたは福音の中にある数々の祝福を自分のために獲得するためにとごとくの持ち物を与えよとは言われないであります。それはともかくとして、とごとくの持ち物を心から喜んで与えない人は天国をつがえないにちがいありませんから、人は誰でも持ち物の中から「いくらか」与えることによつて「すべて」を喜んで与えることを証明せよと要求されるにちがいないと確かに言えるでしょう。

主は「見よ、人の子の来るまで今より後を「今日」と称えらる。誠に「今日」は犠牲の日、わが民の「自分の一」を捨てる日なり。この「自分の一」を納めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし。「今日」を過ぐれば火に焼かるる時来らん。われ主の言い方によりて語る、われ誠に告ぐ、明日すべて高ぶる者と悪を行う者はわらの如くにならん。われは万群の主なれば、彼らを火にて焼きつくし、すべてバビロンに留る者一人も助くることなからん。この故に汝らもしわれを信するならば「今日」と称えらるる中に汝らの働きをせよ（教義と聖約、六十四章卅二節―卅五節）と命ぜられて居ります。

今日この聖句はあなたと私とに当てはまらず。この教会すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会は神の国であって、世界で一番大きなまた一番強力な組織になるまで成長しつづけるにちがいありません。それはちょうど「からし種」が成長してついにあらゆる植物の中で最大になったと同じであります。

この教会の会員たちは、地球上に住む人々がみなその効果を感じるまで非教会員たちにつづけて感化を及ぼして彼らの生活をイエス会員にならせるにちがいありません。それはちょうどパン種が結局全部ねり粉を発酵させたと同じであります。イエス・キリストの福音によって得られる喜びと祝福とは、あなたの物質的財産のすべてに優る偉大な価値があります。それはちょうど畑の中の宝と高価な真珠を手に入れた人々の全財産よりもっとこれら二つの方が価値があったと同じであります。今から救い主の再び来たもう時までが正しいの時であります。

あなたは、今とこれから先の生涯にわたって、教会の教えを実践することによりまた神の国をうち立てるためにあなたの財産を用いることによって、福音があなたにとつてど



れくらい大切であるかを証明する好い機会を持って居ります。そうすることによって、あなたが天にましますわれらの父の極めて貴い祝福を得られるよう祈り奉ります。

の弟ニールフアイに父の見た示現の説明を求めた。これに対してニールフアイは、さながら私が昔種子に「お尋ねしたいと思っているように」あなたがたは「お尋ねしたい」と聞いて尋ねた。すると兄は「お尋ねてはいない。主はこんなことをわれわれに知らせないからである」(ニールフアイ一書十五章八・九節)とニールフアイに答えた。所で、兄弟姉妹の皆様、もし皆様方の心の中に少しでも皆様方の指導者或はこの教会の真実性について疑問があるならば、私は重ねて皆様方にお尋ねしたい。「皆様方は主にお尋ねになりましたか」と。もし皆様方が誠心誠意心からお尋ねになるならば主は皆様方にその疑問とすることの真理を確に示し

### すべからく汝ら

### 悉く備えをなすべし

デルバート・L・ステツブレイ

十二使徒評議員会々員

さて、おろかな処女たちは入ることができなかつた。

皆様方も私も準備をする必要がある。私達は「人の子」が来り給うその日もその時をも知らない。その日に私達は準備ができていなければならぬ。兄弟、姉妹の皆様、心すべきことは真実の意味に於て生ける神の聖徒となることである。

ニールフアイは下さるに違いありません。そしてその後はもはや皆様方の心には何の疑いもなく、何故ならば神は私達すべてが求めねばならない聖霊によってその証を立て給うことができるからである。キリストの再降臨に先立つと、予言者達が語った兆しの多くが今や我々の眼前に於て成就されつつある。それらの兆は容易に見分けがつくものであり、また私達に十人郎ちその中の五人はさとく、五人は愚かであった処女達の中とえ話を思い出させてくれる。おろかな処女たちは新郷がやってきた時に準備をしていなかった。

# GEMS OF THOUGHT

我々は何処より来りしや

七十人会最高評議員会会員

マリオン・D・ヘンクス



この回復された福音の中で最も大切な事柄の一つは「我々は果して何処よりやって来たのか。何故この世に生をうけているのか。またこの後何処へ行こうとしているのか」との益につける最も根本的な疑問に解答が与えられているということである。

更に我々は人間の本質と天父なる神との関係をも知ることが出来る。聖書が我々人類は天父なる神の文字通りの益の子供であると教える時に我々は聖書を信ずることができると教えられている。

我々はキリストがまさしく生ける神の御子であって、人類にその生活方法を教え給うためこの世に來り給い且つ永遠に生きる事ができるようにするため死に給うたとの確信を有している。我々は選ぶべき種々なる力や歩むべき道のあるこの世界にあっ

て人間は自由でしかもその行為に対して責任ある存在者であるということを知っているし、また我々は自らの歩むべき道を選ぶ自由を有しているのみならず、実際に選ぶ必要にも迫られている。未発達ではあるが人間は自らの中に天の御父が完全に具えて居り給う特質である根本的な属性を有ち合せている。

我々は主イエス・キリストの回復された福音によって我々人類が神の文字通りの子供であり、また我々も神の如くなる事ができ、そして神の導きのもといつの日か我々も神と共にその大いなる創造の御業に携ることが遂には可能となるという確信を抱いている。

回復された真理により創世の前に一つの計画があったということが証されている。そしてその計画には我々の地上に於ける存在と我々の自由なることと我々の責任とが企画されていたし、また我々がこの世の生活を終えた後も我々が今、現世で生きることが確かであるように、更に生き続けるということが証されている。

(三頁より続く)  
はあり得ない。

本当の末日聖徒の家庭とは、万一キリストが入っておいでになつたとしても、なかなか云りかねて留まっていることを喜びたもうようは家庭である。

私はわが教会の若い人々のためにたった一つの考えを胸に抱いているが、それはすなわちこれらの人々が幸福になるということである。私は、この世に於て家庭ほど幸福を見出し得るところはほかにどこにもないことをしかと知っている。家庭を小さな天国にすることは可能である、全く私は天国は理想の家庭の延長であると思つてゐる。

より抜きの教えなる八福の教え

故十二使徒会会員 アダム・S・ベニオン



過ぎし六ヶ月の間に、私は福音書をくり返しくり返し読んでみた。救主の証し人として召された私は、救主御自身とその言

伝てを今少しもつと完全に理解し始めねばならないと決心をした。皆様方も御存知のように「救主はあまねく廻りて救えを説きまた善きこともなし給うた」。そして救主のなし給うたこと——と説き給うこと——が福音書を形造っている。全福音書の中から皆様方がよく考えてみることで、さる十の教えを挙げてみよう。

九つの短い節の中に説かれていた八福の教えはかつてこの世の人に与えられたものの中で最も深い意味のあるステートメントの一つとなつてゐる。

「然らば凡て人にせられんと思ふことは、人にもまたその如くせよ。これは律法なり、予言者なり」。(マタイ伝七章十二節)との黄金律よりもつとよい対人関係の原則や個人生活の指導原則は今迄に考え出されたことがない。

全人類の手本となつてゐる主の祈りは実に簡潔で美しいものである。

「人もし汝に一里ゆくことを強いなば、共に二里ゆけ」(マタイ伝五章四十一節)との聖句の中に悦び進んで二里行く精神が示されている。

救主の赦しに関する考え方が次の聖句の中に暗示されている。

「ここにペテロ御許に來りて云う「主よ、わが兄弟われに対して罪を犯さば幾たび赦すべきか、七度までか」、イエス云い

「七度まで」とは云わず「七度を七十倍するまで」と云うなり」(マタイ伝十八章二十一節、二十二節)「なんじら人を審くた審かれざらんためなり」

「なんじの財宝のあるところにはなんじの心もあるべし」(マタイ伝六章二十一節)

「まず神の國と神の義とを求めよ、さらば凡てこれらの物は汝らに加えらるべし」(マタイ伝六章三十三節)

「さらばその果によりて彼らを知るべし」(マタイ伝七章二十節)はすべての親にとつてチャレンジを与える言葉である。

すでに今朝程この所で現世に於ける生活の限界について少々の話があつたが、しかし我々の理想は、「さらば汝らの天の父の全きが如く、汝らも全かれ」(マタイ伝五章四十八節)である。

### 「主により頼め」

十二使徒会會員 マリオン・G・ロムニー



「主に依頼むは人にたよるよりも勝りてよし。主によりのむはもろもろの候にたよるよりも

勝りてよし」(詩篇 百八十八節、九節) 以上の詩の中に詩篇の作者は早かれ、遅かれ万人が認めるに違いない永遠の真理を云い表している。

さて愛する若い兄弟姉妹達よ、アルマの言葉をもつて、私は自らの生きてゐることが確であるように、「すべて神に頼る者は、苦しみ悩み禍に逢う時に助けられてこれらを忍ぶことができ、また終りの日に高く挙げられる」(アルマ書三十六章三節)ということを明らかに悟り知つてゐることを貴方々に証しするものである。そして私は貴方方が今、青年の中に、主に依り頼み、そして主の約束に与るにふさわしい生活を営むよう、決心されんことを乞ひ願うものである。何となれば主の誠命の一つ一つに従うことによつて夜も昼も約束された祝福がもたらされるからである。

知恵の言葉の中に記されている約束を例にとつてみよう。主は

「……およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従つて歩むすべての聖徒らはそのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。また智慧と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず、歩けども氣を失ふことなからん。主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小児たちか如く、彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし。」(教義と聖約八十九章十八節、二十一節)と

# 我が敵は誰か

十二使徒会補助

スターリング・W・シル

な問題に就て討論し  
混乱した後彼は本質

(前頁より続く)  
仰せになって居り給う。

イスラエルの小児たちを過越して行ったさ  
つりくの天使に対する引照はエジプト人を去  
らしめよと云ってなされた説得の状景を思い  
出せるものである。

「……ここに主夜半にエジプトの国の中  
の長子たる者を位に坐するパロの長子より  
牢獄にあるとりの長子までことごとく墜  
たもう。また家畜の首生もしかり。かかり  
しかばパロとそのすべての臣下およびエジ  
プト人みな夜の中に起きあがりエジプトに  
大なるさけびありき。死人あらざる家な  
かりければなり」(出エジプト記十二章二十  
九節、三十節)



敵と友人とを識別することが出来ないこと  
がある」。

「我々は時折  
探偵映画の中  
で悪漢かどの  
人であるか見  
分けることが  
出来ないよう  
に、ときどき

靈感された話、よきサマリヤ人は「わが  
隣とは誰か」(ルカ伝十章二十九節)との  
或る教師の間の答としてイエスによって  
与えられた。人々はその答を一千九百年間

友と敵は丁度祝福と同じように或時には  
変装して来る。然し何等変装されてなくて  
も我々の打撃率ほどちらを証明するにもあ  
まり上手でない。我々の両親或は教師は宗  
教的指導者とその真実の光の内に認めてい  
ない。また同時に我々はほんのうわべの変  
装をした敵が我々の間に入って来て気がつ  
かない間に我々の祝福を奪い去って行くの  
を放任している。我が敵は誰か? は時機

考えて来た時、或る建設的思想が彼等の心  
に印象づけられて来た。適切な物語りは考  
えをよく説明し明瞭にして或場合には實際  
の経験より以上に価値あるものとする。援  
けとなる考えは先づ明瞭でなければならぬ、  
そこでそれ等は深く深く我々の心に印され  
てその影響がより効果的となるのである。  
別の日に他の教師が質問した或個人的

にかなつた質問である。それを考えることは  
身分証明をなすに当り我々の観察眼を鋭くす  
るかも知れない。他の物語が我々が或回答を  
もつとはつきり知る援けとなるかも知れない。  
すべての時代を通じて最も教育的な物語  
りはジュリヤス・シーザーの友、マキス・  
アントニーの話である。三十八名の謀叛者  
の一人がローマ帝国政府を奪取しようとし  
てシーザーを暗殺した直後マキスアントニー

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

がその場面に於てシーザーの尊嚴上に於ける力ある論争により謀叛者の手から実権を取り去らんとした。そこでアントニーとオクタヴィアス・シーザーは共に軍隊を組織して天下を支配しようとして長期に亘る闘争を開始したのであった。

アントニーと同時代に生きた偉大なるギリシヤの道徳家で歴史家であったブルタークはアントニーが如何に信服させる辯舌、理論、勇氣及び人々を指導する才能を以て身を固め謀叛者から世界を取上げたか告げている。

アントニーは次から次へと成功をおさめて恐らく當時の世界で最も秀れた強大な人となった。彼は非常に困難な行軍に堪えた。彼は長い間昆虫や樹の皮を食糧とした。彼はこの最大なる難儀を素晴らしい元氣を以てその部下と共に分ち合った。彼は彼の兵士たちの全面的信頼と忠誠及び献身を克ち得、彼等は如何なる企てにも進んで彼に従った。

けれどもアントニーが実権を確保し、更に闘争する必要がなくなつた時、彼は怠惰になつた。彼は魅惑的なエジプトの女王、クレオパトラと恋愛に陥り、エジプト宮廷の贅沢華美な軟弱の犠牲となつ

てしまった。彼の大いなる心は酒の蒸氣でくもつてしまった。彼は彼の成功をもたらした行程に興味を失つてしまった。彼はブルタークの呼んだ、つりざお將軍となりシエクスピアはまた、勳業婦の愚劣になり果て、しまつたと言つた。

其の後他の多くの者も同様になしたようにアントニーは向上心を放棄してしまつた。だから彼は間もなくその権利を失い始めたのであった。彼の名声は落ち始めた。勝利者の風ほうは失墜した。そして完遂する彼の能力はたちまちにして傾いてしまつた。

彼は道徳的意義及び責任感を失つてしまつた。彼は部下の忠誠心を失ひ民の讚美を失ひオクタヴィアスの支持をも失つてしまつた。堂々たるアントニーの業績は瓦礫に歸してしまつた。遂にオクタヴィアスはエジプトに兵隊を送つてアントニーを捕えようとした。アントニーは自分自身の劍に死を求めてその捕縛から逃れようとした。彼は死の床に在つてクレオパトラに向つて、「世の中に自分自身の力以外にその人をおしたおす力はない」と言う感銘的な言葉を述べた。彼は言つた。

「ただアントニーのみがアントニーを征服することが出来る」と。  
アントニーは世の中で彼の欲するものは、すべてその掌中におさめた。彼自身の外に彼からそれを取るに足る地上の権力はなかつた。

謀叛者の対抗はただ彼をしてより決意を固めさせたのみであつた。刺戟的な挑戦である困難は彼の最大なる努力を呼び起こした。彼が征服した荒野及び山脈は彼を強くした。彼の問題は實際に彼の能力を増大させた。けれども彼が「榮ある道から離れ去つた時」そして彼自身の最上の關心から離れ去つた時、彼を救い得る力はなかつたのであつた。彼は自ら塵の中に置いたのであつた。彼は自ら意識して、愚かにも天下を捨て去つたのであつた。

我々にも起り得ることが如何にこれに類似していることであるか！多くの人が眼前にすべての祝福を持つてゐる。けれども彼等は日の榮えの王国とそれに伴うすべての祝福をも含めてすべてのものを故意に投げ捨てゝいる。神は我々自身の祝福をつかさどる權力を我々に与えられた。若し我々が失敗するならばそれはアントニーと同様に我々が我々自身を滅ぼしたのである。

アリストートルはアレキサンダー大王に、我々のよく知っておくべき重大な真理を語った。彼は言った。

「軍隊が直面する最大なる敵は決して敵軍の中に存在しない。常に我々自身の宿営の中に居る」

これは単に最も重要な真理であるばかりでなくまた同時に最も学ぶことのむづかしいものである。我々が我々自身に対して防禦することは非常に困難なことである。この事は個人にも教会にも軍隊にもまた国民にもあてはまることである。

例えば民主主義の最大なる敵は誰であろうか、それはロシアでもなければ中国でもない。民主主義の最大なる敵は内にある弱点と罪である。ストライキや苦難や無信を惹起したのは誰であらうか。若しもアメリカが倒れるとしたら誰の責任になるであらうか、エジプト及びニアファイの偉大なる文明は丁度アントニーがなしたと同様に、自分自身で打ちこわしてしまつたのであつた。また教会の最大なる敵は誰であらうか、教会の進歩を停止させることの出来る外部の力は存在し得ない。主の御業の我々の部門を退歩させることの出来るのは我々自身である。一八三四年の早期に主は言われた。

「もしわが民罪を犯さざりせば彼ら今にわれ辱しならん」(改義と約旦草)

或時には我々はほんのささいなことで我々自身を滅ぼしてしまふ。アントニーの没落は彼の怠惰とエジプトの女王に魅惑された事に始まつた。

他の者もこれよりもよい言いわけを持たずして彼等の祝福を投げ捨てている。内部に於ける怠惰と罪の故に信仰は失われているのである。

予言者ジョセフ・スミスは彼自身の人々の間から現われるかも知れない裏切者よりも暴徒の行動を恐れなかつた。ジョセフ・スミス自身の補佐(副管長)の一人であつたウイリアム・ロイは彼(ジョセフ・スミス)を裏切つて敵の手に渡すことを援けた。そして一八四四年の六月十二日、カーセイの警官デービット・ペティスウオルスはジョセフとハイラムを遂に殺す結果となつた。逮捕状を持ってノーヴァーに到着した。この証明書(逮捕状)は曾て教会の会員であつたフランシス・M・ヒグビーの誓つた不平に基いて発行されたものであつた。

我々自身の宿営内の敵が何時でも教会内の最大な問題であるのである。マツケイ大管長は曾て言つた。

「教会は無智の或は誤り伝えられた又は悪意の敵による迫害によつて傷つけられた事は若しあつたとしても稀れである。教会の進歩の遙かに大きな障害は教会内

部のあら探しする者、敵意を燃ふる者、我々がらもたらされるのである」

我々が若し我々の問題に就て何かしようとするなら我々は、の教会の敵を証明する必要がある。誰が多くのワード部やステーク部の進歩を停止させているのたろうか、誰が多くの不活潑会員によつて失われた祝福の責任者であらうか、其処にはただ一つの回答がある。その困難は導くこと及び従うことに失敗した両者の教会の会員によつてたわつているのである。

主は我々を無罪と見なされぬ。主は曾て「人々言い逃れあることなし」(改義と約旦八十八章八十二節参照)と言われた。そしてこれは聞くことに更にその上特に教えることに、失敗した者に適用されるのである。指導者たちは「我若し福音を説かざりせば禍なるかな」と言つた予期される罪を旨とせねばならない。

我々は善いこと、或いことなすにかゝらず自分自身を正当化しようとする重大な人間的弱点に陥りやすい。我々は軽々しく我々の欠点を見逃す。我々は我々自身の弱点を見ることを妨げる重大な盲点を持つてゐる。我々が我々の敵を愛さねばならない一つの理由は彼等が我々の欠点を指摘し活動的ならしめるからである。少くとも彼等は我々を忠実に陳たせる。これに反し我々の友人たちは或時

我々を不幸のひそんでいる自己欺瞞の罪に  
なだめ落すガ・ライルは「最大なる欠陥は  
何事にも自覚しないことである」と言った。  
殆ど何にも、況して我々に必要なことは自  
分自身を客観的に分析し批判することが出  
来ると言うことである。

主は若し我々が一人の人を主に導くこと  
が出来たら、その喜びは如何に大きいかを  
示された。これに反して若し我々の無視或  
は悪い模範による誤った指導により一人の  
人を失うならその苦痛は前の場合と同じ比  
例を持つであらうことは当然ではなからう  
か。

主は言われた「……この罪を犯す者  
は禍なるかな」（教義と聖約五十四章五節）  
我々自身の弱点或は不完全さ又は劣った  
指導精神は他人に對し与えられるであらう  
如何なる慎重な対立よりも効果的な障害で  
あることが証明され得る。そして若し我々  
が我々の問題を自覚しないなら我々の罪は  
成長し教多となるであらう。我々は主の御  
業が我々によって内部から切り下げられる  
ことのないようにはっきりとさせるべきで  
ある。

我々は「我が敵は誰か？」と言う質問を  
個人的に我々自身に適用することが出来る。  
私をして無智貧弱、及び不成功的にしてい  
るは誰であらうか。主が現世に於けるまた  
永遠に亘つてのすべての祝福と機会を我々

眼前に置いて居ると言うこの素晴らしい考  
えに印線づけられることに我々はどうして  
失敗することが出来るであらうか。我々自  
身及び我々の隣人の為の日の栄えの王国は  
我々の手の届くところにある。この世の中  
に我々自身の外にこの祝福から我々を遠ざ  
けるに充分な力はないのである。

「只アントニーのみがアントニーを征服  
出来る」。悪魔でさえ我々の意志に反して  
我々を悪に強制することは出来ないのであ  
る。

我々は我々自身の行動に責任を持たねば

## 質問欄

✓ 死者のための

神殿の事業

「質問」

キリストの時代前に死者のための神殿  
の事業は執行されたか。

「解答」

救主が獄屋の霊を訪れたもう一つの門の  
鍵を開けたもうまで死者のための神殿の  
事業は執行されなかつた。モーセが荒野  
に於て建てた幕屋（または神殿）、ソロ  
モンの神殿、更に後になりイスラエルに

ならない。罪人は彼自身の罰をもたらし  
るのである。怠け者は彼が完成することに失  
敗した仕事の祝福を失っている。

若しも我々が我々が信じていると言うこと  
をほんとは信ずるなら我々の内の或者は我々  
のするようにはなさないであらう。何とな  
れば若し、々が日の栄光の王国を失うなら、  
それはただ我々自身が「栄ある道」からそれ  
を故意に我々の祝福を窓から投げ捨てたから  
である。世の中に我々自身の外に我々の永遠  
の栄えに進むこと及び幸福を停止させる力は  
何もないからである。



入れられんや。この故を以て、われモーセに荒野に在りて共に運び歩くよう幕屋を造り、また創世の前より隠されたたりしこれらの儀式を顕さんため約束の地に於て一つの宮居を建つべし、と命じたり」(教義と聖約百二十四章三十七節―三十八節)

荒野に於て為された事業、及び後になりエルサレムの神殿でなされた事業は、旧約及び新約聖書の中に明らかに示されているように生者のためのみの儀式であった。古代予言者の多くは神権の鍵を有し、これにより彼らは儀式を執行し、また日の栄の王国に「所」を見出すために必要な祝福に与っていた。そしてこれらの祝福はたえず価値あり、資格ある者たちに附与し続けられた。

死者のためのすべての儀式はイエス・キリストが「死」に対して勝利を得られ、ペテロとその兄弟たちに死者に代つて儀式を司どる権能が啓示されるまでその執行を待たねばならなかった。残念ながら、執行されたこのような儀式についての歴史を示す何らの記事が新約聖書中に示されていない。パウロはコリントの教会の聖徒たちに与えた最初の書簡文の中で死者のためのバプテスマについて語り、この原則が極めてよく理解されていたという事実を与えている。彼らはこの事を復活に關する問題の中

で述べている。教会の初期の人たちの著作物からも、このような教義が宣べ伝えられていたという知識を得ることが出来る。

ブリガム・ヤング大管長はこの質問に關し明確な言葉を与えている。「イエスは救いの福音の鍵をたずさえて獄屋の鍵たちに説き明かすために行かれた最初の御方であった。これらの鍵は靈界を訪れたもうた時にイエス御自身に渡され、これらの鍵により主イエスは獄屋に於ける靈たちの救いの門戸を開かれたのである。」

この質問に關係している聖句は多く聖書中に見出される。才一に主がイザヤに語られた御言葉を考察してみよう。

「云く、われエホバ公義をもて汝を召したり、われなんちの手をとり汝をまもりなんちを民の契約とし異邦人のひかりとなし而してめしいの目を開きとらわれびとを獄よりいだし、暗にすめるものをおりの内より出さしめん。われはエホバなり是わが名なり、我はわが榮光をほかの者に与えず、わがほまれを偶像にあたえざるなり」(イザヤ書四十二章六節―八節)

「主エホバの靈われに臨めり、一はエホバわれにあぶらをそよぎて貧しき者に福音をのべ伝うることをゆだね、我を遣して心の傷める者をいやし、とらわれびとにゆるしをつけ縛められたるものに福音

をつけエホバのめぐみの年とわれらの神の刑罰の日とを告しめ、又すべて哀しむ者をなぐさめ」(イザヤ書六十一章一節―二節)

獄屋の門戸を開けて、そこにとらわれた人たちに自由を宣言するとのこれらの聖句は明らかに自分の将来の行末を知らずして暗黒の中をさまよう死者に關係ある聖句である。救主は伝道に出られてから間もなくして自分の故里なるナザレを訪れたもうたがそこで会堂に入ると、聖典がイエスに手渡された。イエスはその聖典を開きイザヤの言葉を讀んで人々に次のように云われた。「この聖句は今日なんちらの耳に成就したり」(ルカ伝四章二十一節)即ち、これは福音を宣べ伝える時、及び生ける者、死せる者のための贖いの時が来たことを示すものであった。

主イエスが復活される前に死者について語った最も絶対的な御言葉は富める男とラザロの物語の中に見られると考えられる。これは主の為された譬話の中で最もよく知られているものの一つである。これは今述べている問題に關係あり、極めて興味あるものであるから、ここでその一部を引用する。

「或る富める人あり、むらさきの衣と細布とを着て、日々おごり樂めり。又ラザロという貧しき者あり、しゆもつにては

れただれ、富める人の門に益かれ、その食卓より落つる物にてあかんと思う。而して犬ども来りて其のしゆもつをねぶれり。遂にこの貧しき者死に、御使たちに携えられてアブラハムのふところに入れり。富める人もまた死にて葬られしが、黄泉にて苦惱の中より目を挙げて遙にアブラハムと其のふところををるラザロを見る。すなわち呼びて言う「父アブラハムよ、我をあわれみて、ラザロを遣し、その指のさきを水に浸して我が舌を冷させ給え、我はこのほのほのなかに固ゆるなり」アブラハム言う「子よ、憶え、なんちは生ける間、なんちの善き物を受け、ラザロは悪しき物を受けたり。今ここに彼は慰められ、汝は固ゆるなり。然のみならず此処より汝らに渡り往かんとすとも得ず、其処より我らに來り得ぬために、我らと汝らとの間に大いなる淵定めおかれたり」富める人また言う「さらば父よ、願くは我が父の家にラザロを遣したまえ。」（ルカ伝十六章十九節）

獄屋の靈たちを訪れたもうた時に橋渡されて、渡る事を可能ならしめたもうたのであった。ジョセフ・F・スミス大管長の見られた死者の贖いに関する示現もこの譬話と完全に一致している。しかし、キリストはとらわれた悪しき靈たちのところへは行かれない。ただ価値ある義しき靈たちによきおとずれを宣べ伝え、次に力を組織したもうてその愚実な侯たちにこの淵を渡り暗黒にある靈たちにおとずれを宣べ伝えさせたのである。

この質問に關しては主がエノクに現われたもうた時に与えられた示現の中により多くの光明が見出されると思われる。

「この故に、われはわが手を伸してわが創るところのすべての造られしものを支ふるを得るなり。また、わが眼すべてのものを貫くに、わが手に成れるよるずの工の中に汝が兄弟らの中にある如き大いなる惡をいまだ見ざるなり。されど見よ、彼らの罪は彼らの父の頭に帰すべし、サタンは彼らの父となり、不幸艱難は彼らの破滅とならん。さればすべて諸々の天もわが手に成れるすべての工なるものも彼らの不幸を泣かん。この故に、これらの為さるるを見て天これが為に泣かざらんや。されど見よ、彼の眼見るところの者たちは洪水の中に亡びなん。見よ、われ彼らを閉ぢ込むべし。彼らのために一

つの囚屋を備えたり。而してわが選びし所の者、わが前にとりなしをなせり。この故にその者彼らの罪のため苦しまん。彼ら「わが選びし者」のわが許に帰る日に悔い改むれば、その日に至るまで彼らは苦惱の中にあるべし。」（モーセの書七章三十六節）



ジョセフ・F・スミス大管長、カウドリ・バリエス

## 表紙の説明

### 第二代目大管長ブリガム・ヤング

一八七七年九月の或朝、約二万四千名の教会の会員、友人及び政府要人たちが神の予言者に最後の敬意を表すべくソルト・レイク市のテンプル・スクエアに群り集った。偉大なる教会の指導者、殖民者、開拓者及びキリスト教時代の政治家の最大なる人が大いなる報賞へと去って行ったのであった。彼の生涯及びその教えは思慕な者を祝福する神の約束に対する変らざる証詞であった。

勇ましい兵隊の息子としてヤング兄弟は、一八〇一年にアメリカのヴァーモント州に生れた。

ブリガム・ヤングはその少年時代に実際の学校教育はわずか十一日しか受けていなかったにもかかわらず、彼は世界史上最大なる指導者及び教師の一人となったのであった。彼の色彩に富んだ伝記は、尊い努力に於ける成功の美しい証詞である。

敬けんな母から彼は宗教的素養を受けた。彼の母、アビガイル・ホウエ・ヤングは彼がわずか十四才の時に死亡し、彼は家を去

って友人の家族と共に住まねばならなかった。けれども、若いブリガムは常に賢くしつかりした母親の教えに従ったのであった。彼の生涯を通じて彼は大工としてまた農夫

宣教師、知事、使徒、及び予言者として困難な目にあつたが、ヤング大管長は誠実な真理の探求者であつた。彼の真理に対する渴望は彼がモルモン経の写一冊を手に入れた時、彼をしてその真実性に就て研究させ祈らせた。

宣教師に逢わない前に彼はこの本が真理であることを知り聖徒たちを探そうと決心した。

バプテスマを受けたばかりでまだその衣のぬれている間に彼は一八三二年四月十四日、ニューヨーク州メムドンに於てエリ・サー・ミラーによつて長老に聖任された。同年の九月に彼はジョセフとその兄弟たちが小さな果樹園の樹をきつてゐる時に予言者ジョセフ・スミスに逢つた。この予言者との会見に就てブリガム・ヤングは、ジョセフが予言者である事の真実性をはっきりと見分けることが出来た印象を後記してゐる。

彼は次の通り書いた。  
「私は予言の筈によつて確かな証詞を受け取つた。」

ヤング兄弟が始めて予言者に逢つたその日の夜、予言者は立つて「ブリガム・ヤングが此の教会を司る時が来る」と宣言した。

ブリガム・ヤングはバプテスマを受けて二年五ヶ月後に神の使徒に聖任された。ジョセフ・スミスの殉教の後、新しい予言者としてまた先見者、啓示を受け授ける者としてヤング大管長は教会の会員たちを導き、アメリカの広原を越えてユタ山脈中の現在の教会本部の場所に伴つたのであつた。

ユタ州の創設者としてヤング兄弟は、単に多くの市々及び教会の企業の組織者として奉仕したばかりでなくまたこの広大な領土の知事として務めたのであつた。

この地域を生産的及び繁栄せる地に建設しながら彼は一八七七年の彼の死に至る迄、三十三年間教会の大管長として務めたのであつた。彼の国の政府から感謝を受けるに適した人としてワシントン市に於けるアメリカの首都の建物の中にあるジョージ・ワシントンやペンジャヤミン・フランクリン、アブラハム・リンカーンの如き、わづかの國民的傑出した人物の像の間に、開拓者、予言者及び末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長であるブリガム・ヤングの像が立っている。

# 信 仰 と 証

## 詞

「斯様な苦痛の下に少年シヨセフ・ミスも大いなる神のみ業を遂行したのだと私は確信して居ます。」

今日、我韓国にも神の宣教師達

### 釜山 林 成 文 先生の私 の 信 仰

私は神に対して突に申訳のない信仰を持つて居ます。朝夕にはいつも神の御意志に随つて生きる様にと念を込めて祈つて居ますが日常生活に於て福音に通う事のできない場合が稀で有りません。斯う覚めた折には恥しさと悔きの念に混れて今にもすぐ泣きたい様な気がして参ります。

私が宣教師三年の夏の或る日曜日朝一人のクラスメートと共に此の教会を訪れてからもはや五年以上もたちました。當時は韓国動亂が激烈だったので到る所に米軍が駐屯し、私の故郷釜山にも数多くの米軍人が駐屯して居ました。

この日の朝も以前の公会堂ではもろもろの宗派が交る代る神に礼拝を捧げて居ました。多くの韓国学徒達は英語を習得する目的に或は僅かの学徒が其の光を探し求め一人に過ぎませんでした。もろもろの宗派の中どれにも属する事は可能でしたが「あ！私が此の真の救を受け得る生きた神の教会に入られたぞよ！」

遂に私に次の事等を感じて居ます。私が居して居る此の教会の凡ての救えは其の神權恢復に随つて居る事実にあります。

神は備えられた方法なくしては何の命をも下さぬ事を。ソ・アイ予言者は深く信じて居ました。

が送られたい者も誰にも聞く事の出来る道が開かれました。宣教師も凡ての会員も力を尽して野に突つた穀物をかり入れねばなりません。我等にとつても草創期の苦難がないとは言われませんが、約束の地を目指して荒野に旅して居た頃のリーハイ一行の苦境を思えばなんの苦難と数えられましょうか。神の荷物は決して重くもなくかえつて多ければ多い程軽みを感じ得ます。我民族は遂に祝福を受け始めた民族です。此の意味に於て韓国動亂は私に否、我民族に大なる意義を有して居ます。突つた荒野の種をながめながら、刈入れを企てつ神を仰ぐ秋、私の胸は嬉みます。

私の愛する兄弟姉妹よ！相互が手となり足になつて一つの目的を遂げましょう。私等L・D・Sの幸福は神意を履行する外はありません。ただ心と力を尽して狭き道を行かば其地に我等の求む「日の榮光」は待つて居るんだと確信しています。アーメン

## 二つの お 恵 み

板 浜 渡 部 正 雄

八月十七日、安息日の朝、指折り数えて待つて居た安子が早く眼をさまして「父ちゃんこの紙安子に預書」と呼びかけた。見れば私が毎日かばんに入れて持ち歩く教会の集會チラシを一束持つている「どうするのそれは人にあげる大切なものだから」と取返そうとすると「安子人にあげるんだから」と言う。「でもそんなにたく

さん要らんでしょう」と言う。「米車の中でも駄でもあげるんだから」とねだる。さて米車に乗ると早速隣の人に向つて「これ板浜の教会のです」と渡し出した。届かない処には「父ちゃんあげて」と応援を頼む。板浜駅で乗換えを待つて居る間ホームのベンチに坐つて居る人、立つて居る人かまわずに涙し始めた。四才の娘が配るのだから誰も断る人が居ない。「有難とう」と頭を下げる人「えらいね」と頭をなでる人、安子は益々得意だ。「父ちゃん、みんな読んでいますよ、きつと教会に来るよ」

私は聖徒の子を持つた親としてほんとに嬉しかった。宣教師を子供に持つた親の喜びがほんとにわかるような気がした。そしてこの娘たちも成長したらどうかよい宣教師になつてくれと心から祈つた。

八月十九日(朝)十六日から良谷が悪くて食事もろくにしなかつた安子がぐつたりとなつて起きない。顔中汁びつしより思つかいが荒く苦しうだ。熱は三十五度一寸から上がらない。何の原因かわからないが今日は医者に連れて行くように言つて出勤前に油を塗り家内と共に祈つた。その夕べ息いで帰ると聖子は庭に出て私を迎えている。びつくりして見ていると走つて来た。正和が「今朝お父さんが行つてから間もなく眼を覚まして水をくれと言ひ水を飲むとすつかり元氣になつたのでお医者にも行かなかつた」と言う。翌朝の家族の祈りはすつかり元氣になつた安子が担当当し、天の父なる神様に心からなる祈りを捧げた。

## 聖 靈 と 信 仰

邦 嗣 安 里 安 助

聖靈に導かれることがなかつたら、世の中は暗黒に陥つてしまふでしょう。聖靈に導かれて (二十六頁に続く)

# モルモン経物語

エマ・マー・ピーターソン著\*渡部正雄訳

## 才三十七

民は自分自身を治める

(モーサヤ書第二十九章)

モーサヤはアロンにセラヘムラの次の王となるかどうかたずねました。アロンは断りました。彼は王となるよりレーマン人に対する宣教師となる方を望みました。

モーサヤは若し他の人が指名されたら問題を生ずるかも知れないと恐れました。アロンは治める資格を持った一人でした。彼はアルマに現われた天使によって改宗したけれどもモーサヤはまた何時の日か彼が悪い習慣に戻るのではないかと思いました。若し彼がそうになって誰か他の者が彼の代りに王になっていた場合彼はその王位を取戻そうとして戦を始めるかも知れないと思いました。

同様にまたモーサヤは、王室でない人が選ばれた場合、或人々は王位に対し自分も同様に権利があると思つて彼等も戦を始めるかも知れない事を恐れました。

これらの事を念頭に置いてモーサヤは民に若し悪人が王になったらその王は民を罪に陥れ彼等すべりの上に問題が生ずるであろうと

云うメツセージを書き送りました。王は更に「さて我々は賢明でなければならぬ、これ等のことをよく考へて此の民に平和をもたらしよ様にせねばならぬ。私はその余生を捧げてお前達の王となろう。しかしながら今我々は判事を選んで我々の律法に従つて我が民を裁くようにしよう」と書き加えました。

彼は民に彼等が投票によってその判事を選ぶように告げました。この方法により彼等は自分自身を治め、もはや王に従属することがなくなるでしょう。

彼は「だからお前等よ此の民の声に従つて、また我々の先祖に与えられた律法によって裁く判事を選べ、その律法は正しく主なる御さまの御手によって彼等に与えられたものである」と云いました。

モーサヤは此の時民に大いなる真理を教えました。彼は「民の聲が正しくない事を望むことは普通ではない、けれども民の一部の者が正しくない事を望む事は普通にあることだ、だから民の聲によつてお前等の事務を処理するよう守りそれをお前等の律法とせよ、そ

して若し民の聲が不正を選ばらぬ神の裁きがお前等の上に下されるであろう」と云いました。

彼は、国内のすべての人が平等の権利を持ち自由でなければならぬと言いました。

民はモーセの書いた事を信じすべての人が同等の権利を持つ事に同意しました。彼等は彼が提案した方法により選挙を行い民の判事を選びました。彼等はモーサヤのこれらの言葉により以前にもまして彼を愛しました。彼等は彼がほんとうに善人で誰に対しても不正に事をするを好まなかつた事を知りました。

その父に代つて大祭司の職にあつた若いアルマは大判事に選ばれました。そこで彼は今や大判事として国を治め同時に教会の大祭司でありました。

その後すぐモーサヤ王は死にました。それは、リーハイとその家族がエルサレムを去つてから五百年後のことでした。

## 才三十八

レーマン人に対する伝道

(アルマ書第十七章)

セラヘムラの地の判事を選挙し

て少し経ってからモーサヤの息子達はレーマン人に対する伝道の準備を致しました。彼等の父モーサヤ王は主なる神さまによって彼等を行かせるよう、そして多くの者が彼等の教えを信ずるであろうことを曾て告げられました。

四人の息子たちは此の伝道中に於けるお導きとお援けを主なる神さまに頼んで永いこと断食しお祈りしました。彼等はレーマン人に福音を教える主なる神さまの御手の器となるようにまたニーファイ人に関する真理となるよう祈りました。

彼等は父親に別れを告げ町を離れ十四年間に亘る伝道に出かけました。彼等は道中獲物を取って食糧とすることが出来るようにつるぎや弓矢、投石機等を携えて行きました。

彼等は荒野を何日もの間旅を続けその指導と援助を求めて絶えず断食しお祈り致しました。或日主なる神さまは彼等に「元氣を出せ」と言われ彼等は元氣づけられました。

その後主なる神さまはもう一度彼等に語り「お前等の兄弟レーマ

ン人の処に行き我が言葉を打建てよ、然しお前等は我が手の内によい模範を彼等に示す為辛抱して永い苦難を堪え忍べ、そうすれば我はお前等を我が手の内に使って多くの靈魂を救うであろう」と告げました。

息子達は主なる神さまよりの此の啓示を喜びました。これは彼等にその伝道に対する新しい勇氣を与えました。彼等はもう恐れませんでした。彼等は若し彼等が正しい事を行えば、主なる神さまは彼等を援けるであろうことを知っていました。

彼等はレーマン人の国境に着いた時、止って彼等のその後の計画に就て相談しました。彼等は皆一緒に行く代りに別々に分れそれぞれ異った方向に行こうと決議しました。彼等の指導者であるアンモンが兄弟の一人々々を祝福して指示を与えました。そこで彼等はお互にさようならをして後日何時の日かまた彼等を集めて下さるであろう事を主なる神さまに信頼しながら彼等は分れて各々異った方向に向って進みました。彼等は大なる仕事についたと感



アンモンを守らる

じましたが果してそれは偉大な仕事であり、また難事業でありました。何故なれば彼等が今神の道を宣べ伝えようと企てた民は野ばん、怒悪、頑固でニーフアイ人を殺し其物をぬすみ或はかすめることを樂しみ財物其他金銀宝石などに心を用いそれ等の物を得るのに自ら勞する必要がない、先殺人と掠奪を行ふ者であります。ですからレイマン人は非常に怠惰な民で其中には偶像を拜する者が多くあり何れも先祖よりの伝統の爲神の呪いを受けました。けれども彼等が若し悔改めるなら主なる御さまの誓約は之にも及ぶのであります。

### 第三十九章

アンモンは羊を救う

(アルマ書第十七章)

それぞれ異った道に進んだ兄弟達に別れを告げたアンモンはやはりレイマン人である、イシメルの息子達の名をとった、イシメルと云う地方に行きました。イシメルはリーハイと共にエルサレムより来た者の内の一人でした。

アンモンがそこに着くや否やレイマン人達は彼を捕え縛って彼等の王の前に連れて行きました。之

はレイマン人がその地にニーフアイ人を発見した時の習慣でありました。彼等はその王が虜を殺すか、牢に入れるか彼等の奴隷とするか、ニーフアイ人の国に送り返すかを決定出来るように王の前に連出したのであります。

このレイマン人の王の名をラモーナイと呼びイシメルの子孫でありました。王はアンモンに何故此の地に来たか、また彼自らがレイマン人の間に住みたいと望んだのかと問いました。

アンモンは「はい私が今此の民の間に住みたいと望んだのであります。そして恐らく死ぬ迄住むでしょう」と言いました。

この言葉はラモーナイを喜ばせました。彼は僕達に命じてアンモンを縛った繩を切らせました。王はアンモンが好きになり王の娘の一人をその妻にしたいと言いました。アンモンは此の時まだ結婚する事を欲しませんでしたので彼は「いいえ、けれども私は貴方の僕となりましょう」と云いました。そうしてその通りになりました。

王様は彼に王の羊を飼う役目を与えました。三日後にアンモンと

或王の僕達は羊を水辺に追って行きました。此の同じ場所に羊を追って来た他のレイマン人達は怒りました。王の羊の群が近づくとこれ等の他のレイマン人達がそれを追い散らしたので王の羊の群は水辺に近づくと出来ませんでした。

アンモンと一緒に居た僕が恐れ驚いて「私たちの兄弟らの飼っている羊の群もこの連中の悪い行いのために追い散らされそのために王は私たちの兄弟らを殺した。この度はまた王が私達を殺すにちがいない」と云いました。

そこで彼等は泣きながら「我等の羊の群はもう追い散らされてしまった」と云いました。

アンモンはこれを見て喜びました。何故ならば彼は今主なる御さまが彼に与えた力を使うことが出来るそれが彼をしてレイマン人達に福音を説く機会となるであろうことを知っていたからであります。アンモンはその同僚である僕を慰めて「私の兄弟らよ、心配するな。さあこれから行って羊を探し、これを集めて水の所へ追い返そう。こうして王のために羊を護るならば、王は私らを殺さないにちがいない」と云いました。

アンモンは彼の友人達はそこで羊を集め引卒して水溜に戻って来ました。再び悪い人々が追い散らしにやって来ました。けれどもアンモンは王の僕を取巻いて一つ群にしゃかりとかこんで置くように言って彼は只一人でこれ等の敵と戦いに行きました。

王の僕達はアンモンに言われた通りして羊をしゃかりとかこんで、そこを守って居りました。彼等はアンモンが彼等の敵に向って行くのを見守っていました。悪者達が彼の来るのを見た時、彼等は容易に彼を殺せると思いましたが、彼等はアンモンに石を投げ始めました。けれども彼を傷ける事は出来ませんでした。そこでアンモンは彼の投石機を以て石を投げ敵の内六人を打殺してしまいました。これを見た他の者は大層怒り更に彼を殺そうと決意しました。彼等は投石で彼を打つことが出来なかつたので今度は皆でこん棒を持って打殺しに來ました。

アンモンは恐れませんでした。彼等が近づくと彼はつるぎを抜いて彼等がそのこん棒で打とうと腕

# 系図のページ



の授けとなる所見に限られる。  
・ワード部或は支部

## 系図委員会報告...

ワード部の系図委員会の書記は毎月、ホーム・テイチャーの報告を整理し同時にまたステーク部委員より受取った神殿登録簿より神殿活動に関する資料を概括する責任を有する。このまとめたものから書記はワード部神殿及び系図委員会四半期報告を作成する事が出来る(用紙は本部に在る)ワード部に於て作成された四半期報告書は四月、七月、十月、一月の各十日迄に完成してステーク部系図委員会書記の手に届くように送付されねばならない。

ワード部書記によって四半期報告書が完成された後、その作成の為に用いられた資料(ホーム・テイチャーの月例活動及び神殿出席と執行された儀式)はワード部系図委員会の参照の為相当の期間に亘って保存しておくように提案する。

ステーク部の支部系図委員会書記及び伝道部に於ける支部系図委員の活動に就て同様の報告書を用い

る。若しもホーム・テイチャーが或所見を記録したい時は用紙の裏面に記載する。その参照されるべき註は同一の家庭に指名されるであろう将来の、ホーム・テイチャー

・ホーム・テイチャーの報告書:

各組(二人)のホーム・テイチャーの使用する特別なホーム・テイチャーの報告書用紙は系図協会に備えられてある(本部に在る)

この報告書はホーム・テイチャーによってワード部会員の家に訪問がなされた時に作成される。作成されたフォームは翌月の五日前にワード部系図委員会の書記に提出されねばならない。このよう

にホーム・

テイチャー

が若し一

月分の報告

をしようとするなら、二月五日迄

にワード部書記に手渡さねばなら

ぬ。これと同様の報告書が教会の

伝道部のホーム・テイチャーに

よっても作成され月の終りに直ち

に又は翌月の五日前迄に支部系図

委員会の書記に手渡されねばなら

ない。

若しもホーム・テイチャーが

或所見を記録したい時は用紙の裏

面に記載する。その参照されるべき

註は同一の家庭に指名されるであ

る。若しもホーム・テイチャーが

(モルモン経物語続き)

をふりあげた時その腕を切ってしまいました。彼がそのつるぎを以て殺したのはその頭目だけでした。

他の者は彼等の頭目の死んだのとまたこん棒を振上げた者達がその腕を切落されたのを見て逃走してしまいました。

アンモンはそれを追跡しました。がすぐ戻って来て王の他の僕達に手伝って羊に水を飲ませました。それから彼等は町に帰りました。

彼等は敵共の切断された腕を持って帰り王の前に置いて王にその起った事を告げました。アンモンは彼等と共に帰らず尚留って王の馬に食物を与えて居りました。

王様は他の僕達がアンモンが如何に羊の群を救ったかまた敵との戦に於ける偉大な力に就て語った時大変感動されました。特に彼はアンモンを攻撃した敵がアンモンを傷つけることも殺す事も出来なかつた事を知って驚きました。

アンモンのように忠実な僕は王の僕の中に一人も居りませんでしたが、そして彼はアンモンの力を知って驚きましたが彼はまたアンモンが頼りになるのを知って喜びました。

る。然しながら神殿から遠距離にある支部の報告には神殿の仕事に關する資料は勿論、無視される。伝道部内支部系図委員長は彼の報告に署名をして伝道部系図委員會會長宛報告當該四半期の翌月の十日迄に送付せねばならない。特に定められた様式に記載されない特別活動または一般集會の如何なる註釈参照或は説明にせよそれ等は報告書の裏面に記載するように提案する。

：ステーク部又は伝道部系図報告  
 各四半期末に四半期ワード部神殿及び系図委員會報告を整理することはステーク部系図委員會書記の責務である。書記はこの目的の爲に系図協會によって備えられた報告書様式を用いる（聖徒の道四月号に掲載済）この報告書は四月七月、十月、一月の各月の十五日迄にソルト・レイク市の系図協會に到達するように作成送付されねばならない。

ステーク部系図委員會會長は細心の注意を以て報告書を点検した後彼の爲に備えられた三つの写し

に署名する。一部をステーク部長に研究資料として送り、一部は前述の通り系図協會宛送り、他の一部は系図委員會會長のファイルに保存する。伝道部はステーク部に備えられたと同様の報告書様式を用い伝道部及び神殿活動四半期報告書を提出する。神殿から遠隔の地にある伝道部でその會員が代理のエンダウメントを受けるに遠すぎる時は、この特別の活動に就ては無視してもよい。

神殿の儀式の執行に備えてその氏名を登録する前に証明の爲に記録事務室に伝道部を通じて正規に提出される家族の記録がある時はその報告は用紙の裏面に次のように挙げる。

- a、伝道部系図員委會を通じて提出された家族の記録の数
- b、点検のために記録事務室に家族の記録を提出した會員の総数  
 （各會員を一度だけ数える）

## 才四回

### 月例 地方部 合同系図委員會

八月十七日中央支部に於て主題の件開催、恒例の如く各支部より報告あり、本月は三宮支部より安芸兄弟が出席し三宮支部の系図委員會の活動状況に就て報告あり特に熱心な植村茂夫會長は戸籍謄本請求用紙を各信者に配布しているとの話に一同感激しました。

本月は北支部から左記の通り提出があった。

- 大塚昌次兄弟 系図 六
- 家族の記録 十
- 福田正勝兄弟 系図 一
- 家族の記録 二
- 喜多恒子姉妹 系図 一
- 家族の記録 一
- 中島美恵子姉妹 系図 一
- 家族の記録 二

今後各支部とも競って此の北支部に劣らないように系図並に家族の記録を相当数まとめ一括提出されるように希望します。

次いで北支部長大塚兄弟より再び経險に基く貴重な特別講演があり、最後に渡部兄弟が支部系図委

員會報告書類に就て説明本部にて印刷した前述（報告書に於て）の一ホームテイイチヤールの報告書及び支部系図委員會四半期報告書用紙を各支部に配布した。

未だ受取っていない支部に於て若し必要でしたら至急本部の方へ申出て下さい。直ちに送付致します。

伝道部系図委員會會長  
 渡部 正雄

### 太平洋に於ける神殿(上)

#### 十二使徒會補助

ゴルドン・B・ヒンクレイ

それは彼等が折り且待ちこがれていた日であった。その日は一九五八年の四月、主の家が献堂される日であった。

ニュージールランドの雨の島及び北の島より、パケハ人やマオリ人が来た。オーストラリアの遙か西海岸パースまで、また南方はタスマニアに至る迄の二つのオースト

ラリア伝道部の聖徒たちが集った。海洋の島々から船や飛行機でサモア諸島やトンガ諸島やラトonga島及びフィジー諸島の人々が集まった。タヒチからまたハワイからも同様に出席した。

そしてアメリカから教会の大管長及び其他の教会幹部が其の妻たちを伴い、また一度ニューシラランドに働らいた宣教師達と一団となつて飛行機で飛来した。

彼等はいろいろの型の人々であった。即ち事業家、学者、工場労働者、コブラ採集者、真珠貝採取者等けれども不思議に彼等は似ていた。アメリカから来た或る事業家は、彼が二十年以前にその間に入つて働らいたことのあるかっ色の皮膚の忘れることの出来ない人々と抱き合つた時程歓喜した事はないと言つた。そこには種族の差別は見られなかつた。すべての人が神の王国の市民であつた。人は人々の内にある善意と団結と真理の爲の無限の力が主の仕事と権能の内共に結びついているのを感じた。

彼等の大部分の者が其の妻を同伴してゐた、或者たちは彼等の子

供たちをも伴つてゐた。その太平洋の広大な地域に於て未だ曾てこのような光景が見られたことはなかつた。それにこれと同様の他の場合が訪れるまでには更に何十年かたつてあろう。ニューシラランドの神殿が献堂されようとしてゐるのであつた。

ワイカト河の縁の谷間に奇蹟がもたらされた。泥炭地及び牧草地の上に校庭が開闢され南の岡の上に神殿が建つた。七年前に此処は現在のこの周辺の地と同様に農耕地であつた。灌木の生垣がそれをきちつとしたかたの地域に区割した。そこで聖徒たちが来て一週間の内六日間青写真を読み、七日目には聖書を読んだ。

教会の森からリム材が運ばれた。採石場から砂と軽石がもたらされた。製材所、コンクリート施設、家具装備、車庫、ここに再び勤勞奉仕者たちによつて開拓がなされたのであつた。

神殿の献堂式前三週間に亘つて二百万余りのニューシラランド市民の内十一万二千人の人が案内されて建物の中を通過した。彼等は好奇心と敬虔の念と称讃の声を以て

通つた。彼等は此の設計の奇蹟を見た。一つ一つの礎石が奉仕者の手によつて造られ置かれた。一本一本の針がその勞務を奉獻した人々の手によつて打たれ一本一本のパイプが彼等の手によつて連結された。

献堂式を眼前に控えて熱狂的仕上げがほどこされた。毎朝五時に前夜遅く夜中迄働いた人々を目ざまさずサイレンが重く鳴り響いた。急ぎの朝食そして朝の祈りそれから働き手たちは作業に着いた。

マツケイ大管長及びマツケイ姉妹は四月十九日の土曜日に神殿に到着した。十二使徒会のマリオン・G・ロムニ長老及びデルバート・L・ステブレイ長老、私自身、

教会建設委員会会長ウエンデル・B・メンデンホール、建築監督者ジョージ・R・ピシンガー並に我々の妻たちが同伴した。前ニューシラランドの宣教師、ルロン・H・チンゲイ長老がマツケイ大管長の書記として同行した。

大平洋伝道部の部長たちがその妻たちと共に列席した。ニューシラランドのアリエル・S・パリフ・オーストラリアのセルフ・Y・フ

レクソン。南オーストラリアのトーマス・M・ピンガム及び彼の後継者ジョン・O・サイモンソン。サモアのチャールズ・M・サムブソン。トンガのフレッド・W・ストーン。タヒチのエリス・V・クリスチエンソン。

太平洋教育局の会員であり前ハワイ神殿の管理会長であつたエドワード・Y・クリソード、オアフステーク部長もホルルから来た。米国からの訪問者の内で最も熱烈な歓迎を受けたのは、ポリネシヤ人に愛された使徒マシュー・カウレイ長老の未亡人エルヴァ・S・カウレイであつた。

伝道部の人々はこの日に備へて二ケ年間準備した。マツケイ大管長は二人のマオリの服装をした人によつて彼の車から迎え導かれた。昔の首領を訪れた時のような伝統的対面法で接されそれから抱擁された。脱帽した六千人の教会の会員が敬虔の念を以て立並んだ。

一九二一年に伝道したマツケイ長老とヒュー・J・キャノン長老を憶えている年長の婦人たちは主の予言者の戻つて来た事に喜び泣いた。勇敢に信仰を守り続けて来

た強い人、老いた人々は歓声を上げた。

### 系図のキャンプ（横浜）

八月二十二、二十三の両日に亘って横浜支部系図委員会会長加藤俊夫兄弟の計画に基いて中津けい谷に於て主題の件が開催された。

二十二名の参加者があり初日、日中、けい谷の流れに身を清めた兄弟姉妹たちは夕べに山上に月の輝き始めた頃、モーセに導かれたイスラエルの民が荒野に張った幕舎をも忍ばせるような二十五人用の天幕の側に高く積み上げたまきを囲んで系図の集会、キャンプファイヤに入った。

燃ゆるが如き若人の信仰を象徴する聖火の点火を頼まれた時、私はカルメル山でパアルの祭司四百五十人の空しき叫びをしりめにエホバに祈って火を降らしたイスラエルの予言者エライジャを思った。点火された炎は燦々と燃え上った。聖徒達は神を讚美して高らかに歌った。そうだ一八三六年四月三日にカートランド神殿に姿を現わして、この末日の神権の時代の鍵を

ジョセフ・スミスに渡したエライジャは今此の伝道部をも訪れたのだ。

あの時「先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん」と宣言したエライジャはいま我々日本の聖徒たちと同じように叫んでいる。見よ、エライジャの祈りによって降った火は若き聖徒たちの心の中に炎々と燃え上って行く、此の伝道部に於ても聖徒たちは先祖をたずね系図の記録を書き始めた。カウレイ長老が一九四九年伝道本部を献堂した時に祈った予言が今私たちの眼前に輝き始めた。

日本国中ここかしこにいくつかの神殿が建ち日本国民は万国の民の中にあつて義を思い起させるしるしとなる日が来る

翌日私たちは約千メートル近くの仏果山に登った。山頂にて中食をすませた途端にこれもエライジャが山腹で祈った慈雨であるうか猛烈なしゅううに見舞われた。全員びしよぬれ、悔改めにバプテスマの思いを新にした無言の山上の垂訓であつた。

下山後主の愛、豊かな加藤兄弟の取計らいで全員温泉に身を暖め、一人の事故者もなくその夕刻全員無事帰宅した。

私たち一同はこの貴重な体験を

### 系図協会の代表的職員

チャーチニュース、

一九五八年七月十二日

……すべての国は流のごとく之につかん……

「すえの日にエホバの家の山はもろもろの山のいたゞきに堅く立ち、もろもろのみねよりもたかく挙り、すべての国は流のごとく之につかん。」

（イザヤ書二章二節）

この写真は系図協会の職員の代表的な人たちで主としてヨーロッパそれに加えて他の幾つかの国々を代表している。

生かして今後共に手をとって系図の仕事にまい進したいと念願して居ります。

（横浜 渡部正雄）

彼等の仕事の内容は毎日受取る印刷された書物や原稿やマイクロフィルムなどの莫大な記録を処理し転写することを包含している。かくしてここで外国語は国務省及び特に外交問題を取扱っている別機関を除いて米国の他の如何なる事務室よりも広範に使われているのである。

これ等の人々はソルト・レーク市の協会総務部に働いている外国より選抜雇備された多くの人たちの内のほんの一部の人たちである。ヨーロッパ、カナダ、メキシコ、及び其他内外各地に於ける多くの協会の仕事にたずさわる多くの其他の職員が居る。語学の才能に恵まれた外国から



...And all nations shall flow unto it...

身太多くの職員が或は研究室に或かくしてそれは教会の一因際  
 は実地に又は協会の探求の活動に「合」と組分けすることが出来るで  
 その全時間を費している。あろう。

お便り交換したい

拝啓、日本の兄弟姉妹の方々御機嫌如何ですか。私は韓国に住んで居る末日聖徒イエス・キリスト教会会員の一人として御挨拶を御送り致します。

最も短かな距離にある隣接の国に居ながらなんらの交際もなかったのは私に取っては悲しみの一つとして以前から手紙の交際でも有ったならばと考えて居りました。特に東京は私に取っては生れ故郷で有り、私の生涯の内でも忘れられない処で、今でも過去を記憶に求めて夢にまで見る事が数知れない程で有りました。

私が東京を後にしたのが昭和二十年の四月、今は其の時とは随分変わったと思いますが戦後の変わり方を一度見たいと思っております。私達の韓国も、六、二五動乱の戦火の為に一挙に廃きよに化しました。が休戦以来の復旧により面目一新して現代国家の一面を誇って居ります。此度私達末日聖徒の信仰に基いて教会、ならびにMIAの活動状況交換とか又は個人的に交りたい考えを持って日本の兄弟姉妹の皆様へ申込み同意を求めたいのです。不完全な私がサタンのささやきに囚われたように祈り此の教会がジョセフ・スミスによって回復された真の教会で有ることを確信し一層信仰を固める決心とこの教会を知るお互の幸福を交したいのです。そして福音を国のすみずみまで広める力を養ない、すべての人々に真の教会を知らせたい希望であり、ぜひ一日も早く皆様と交際する喜びを持ちたい希望が適えられるように祈りながら初めての御挨拶を申上ります(八月五日)

大韓民国京城特別市中区会寛洞海軍本部憲兵監室

金 範

# 日本伝道部の回顧

高木富五郎

(その三)

バプテスマを受けた当座は心の緊張が一しおで、良い僕となって

教会のために尽す決心をしました。しかしその年の七月に学校を卒業し、まもなく読売新聞の政治部記者に就職すると、今までのように熱心に教会へ通い得ませんでした。それは地方出張が多くなって毎日曜日に日曜学校へ出席できないのです。それでもM.E.A.へは出来るだけ出席するよう努めましたし、日曜学校も都合のつく限り出席するようにして居ました。

そうして幾年が経って一九一九年頃、熱心に教会へ姿を見せたのが栗山長次郎兄弟でした。彼は理論家で雄弁家でM.E.A.の中心となっていたが、間もなくアメリカのユタ州へ行って姿が見えなくなり

ました。佐藤兄弟もハルピンで商店を経営しているということだ。たし、堀切兄弟も南洋方面へ雄飛して行ったということでした。そして私も一九二〇年六月にはソルト・レーク市にある邦字紙「ユタ日報」主筆として赴任するためアメリカへ行ったので日本伝道部の想い出はここで中絶した形でした。

ソルト・レーク市へ行く途中オレゴン州ポートランド市で塩木姉妹を訪ね、ソルト・レーク市では栗山兄弟に会いました。栗山兄弟はユタ大学で勉強していたが夏季休暇中は鉄道工事などのアルバイトで非常に苦労していました。そこで日本人会会長に申入れて日本人会経営の日本語学校教師に栗山兄弟を推薦することに成功し、栗山兄弟は教師をしながらユタ大学へ通う便宜を得たことは幸いでした。

その頃、ソルト・レーク市在住の日本人でモルモン人の聖徒は栗山兄弟と私の二人だけでしたから、教会関係の方々から私たちは何か



1911年10月宣教師大会（前列中央トマス伝道部長夫妻）



右の写真は現在のユタ大学総長  
オルビン長老



上の写真はライト長老(左)と  
オルビン長老(1920)

と招待を受け、立派な家庭に出入する機会を得ました。それで私はかつて日本へ伝道に行つた帰還宣教師の訪問を企てました。アルマ0。テイラー長老は葬儀会社の社長でしたが会社へ訪ねたとき最初に発した私の声は「おとなつかしいですね」でした。するとテイラー長老は握手しながら左手の人差し指をくちびるに充てて「此処はアメリカです、アメリカ語で話しましょう。私も日本では日本語で話しました」と言つて私に日本語を言わせませんでした。それ以後は特に先生について会話のけいこを致したが、これはテイラー長老の親切さを示すヒントであつたと、後に思いついたことです。

ケイン長老はユタ製糖会社の労働部長でし

た。大きな部長室で九年ぶりにお会いしたが、テイラー長老と同じく親切な優しいことには昔と少しも変わりませんでした。トマス長老はユタ大学東洋講座の教授で、その翌年の選挙で州秘書長に立候補当選しただけに、なかなか社交家でした。帰還宣教師を中心に、「日本協会」を主催せられ、お宅で私たちのために帰還宣教師会を開いて、たくさん長老たちと会う機会を与えてくれました。

ステンブソン長老は製糖会社オグデン工場の庶務に勤務されていたので、オグデン郊外の住宅を訪問して夫人や子供さん達に久闊を叙し、一泊して翌日曜日には其処のワード部の教会へ出席させていただきました。その翌月の或る日デゼレト・ニュース社の前で野球のダイヤモンド板を夢中で見てみると、後から私の肩をたたく者があつた。振り返って見るとアイビンス長老が陽やけのした黒い顔で立っていた。二人はこう奮して抱合つて喜び、それから日本人経営のスキヤキ屋へ行きました。アイビンス長老は南部ユタで大きな農場を経営しているとのことで、日本人

と会うのも五年目だという。しようゆし豆腐をなつかしみながら、お土産として持ち帰つて行かれました。

もう名前も忘れてしまつたが、アレン長老、ジェンセン長老、バルトン長老などが妻帯して大人になつていたのを覚えています。或る時メイン街の銀行で窓口に住たる若い銀行員が「いつ日本からお出でですか」と見事な日本語で話しかけられてびっくりしたが、その人も帰還宣教師で札幌や、甲府の話をしていました。

ソルト・レイク市では街でも郊外でも到る処兄弟姉妹で充満していますが、さすがにモルモンの聖徒は親切で、ちょっと道を尋ねに入つても「上つて日本の話をしてくれ」と呼び込まれること一再に止まらなかつた。或る夜州検事総長のお宅で集会があつて招かれた時、偶然隣席に居つた一老人が「ワシの家へも是非に……」と云つて居られたが、翌日早速私の杜宅へ招待状が舞込んだものである。実際ソルト・レイク市滞在一年三ヶ月の思い出は終始感激の連続であつたということができます。「兄弟姉妹」というわが教会の言

葉が、かくも事後的に空々しくなっているのは、すべて「恵」と「感謝」を中軸とした信仰の生活に徹していることの現われに外なりません。

その頃はアメリカ各州会に「排日移民法案」が上程論議されていた。またがユタ州会も同じ議案審議のため大分もめていました。その州議会公聴会へ参考人として出席したアルマ・O・テイラー長老は強い句調で「日本人の性格、日本人の生活態度」を最も正確に開陳したことが議員諸公の心を打たずにおきませんでした。果して其の議案は其の年の州議会を通過しません。テイラー長老は当時のグラント大管長とともに初めて日本伝道に赴かれた際の、その日、その心で日本を見たままの感想を公聴会で申述べたまでですが、たしかにテイラー長老の如きは日本を理解するアメリカ人の一人であり、モルモンが全人類を一視同仁しているみ訓えにかなうものであります。

この時代までに日本に伝道に来られた宣教師の数は相当に上ります。そのうちでも顔に印象の強かっ

た人と、名前に忘れ得ない記憶の残っている人など色々ありました。が、ちか頃はとんと記憶力の鈍った私はどうしても顔と名前が一致しません。

た人とも、名前に忘れ得ない記憶の残っている人など色々ありました。が、ちか頃はとんと記憶力の鈍った私はどうしても顔と名前が一致しません。



妹姉常江知奈の伝道中イワハ  
(1928年)

こうした話をしていると、どうしても思い出されるのは奈知江常姉妹です。

私たちが若い者の灯火であった奈知江姉妹は、ハワイでも伝道に専念され、その「死者のバプテスマ」に全身を注がれた崇高な献身的な態度は、今でも生々として私たちの霊に対してすばらしい警鐘を鳴らして下さいます。

私はこの誌上を借りて幾回でも感謝の敬意を表さずには居られません。

.....

(十五頁より続く)  
信仰の道を進まなければ悪魔に誘惑されますが、信仰も大きく強くあれば、私たちは永遠に明るい道を進むことができると思います。信仰に生きてその目的を終るまで緊張せよ。そうすれば聖霊は私たちがその目的の終るまで導いてくれるのであります。私はこのことを証し致します。

(どうぞ兄弟姉妹の文通をお願いします。那覇市五区五組八号)

.....

「この長老」「あの長老」と懐しい想い出が泉のように湧いて来ます。

と答えると、「やあ」と改めて握手をしながらお互いに懐しがったことがあります。

数年ほど以前に東京第一支部を訪問されたA・レイ・オルビン長老が私たちと懐旧談にふけています。

.....

# ニユース欄

## 鈴木姉妹の強い証し

「五十余年の信仰」を病床に訪うて



わが末日聖徒イエス・キリスト教会が日本に伝道部を開いたのは一九〇一年（明治三十四年）であるが、その日本伝道初期の時代から今日まで五十余年間少しも交り

ぬ信仰と証しを持って現存して居られるのは横浜支部の鈴木なみ姉妹である。（本誌九月号、高木兄弟の「日本伝道部の回顧」の記事に最初の伝道本部の写真の中で左

端に立って居られるのが鈴木姉妹です。一九一三年撮影）鈴木姉妹は四年余り前から高血圧のため自宅に静臥し

て療養生活が続けて居られるが、去る八月三十一日鈴木支部長以下支部長会の人々と「なみ姉妹」の自宅を訪問して枕頭で聖餐式を施行した。鈴木姉妹はよほど快方に向って居られるがなお二百七、八十の高血圧のため自宅静養を続けるのだと言つて居られた。

「私は長い間病床にあって教会へ出席できないのを遺憾に思つています。生来私は信仰が弱く、いつもこれではいけないと反省していますが思うにまかせません。しかし私は末日聖徒イエス・キリスト

教会はジョセフ・スミスによって回復された唯一の眞の教会であることだけは確信しています。長い間病床にあるのも神の思召による試練であると考えていますから少しも気になりません。ひたすら神に感謝しながら福音の実践に心を勵まして居ります」と極めて強い証しを開陳致しました。

鈴木姉妹の強い証しには出席者一同心から感動させられました。鈴木姉妹が七十八才の今日まで五十余年間の交りぬ信仰は私達に尊い灯火となったように思う。閉会の讃美歌をうたい、祈りを捧げて散会したが、三階の病室の階段まで見送りに出られた鈴木姉妹の面持ちは喜びに輝いているように見受けられました。

子供の日曜学校  
子供日曜学校では、プライマリ

一と一緒にピクニックを行いました。教会でまとめてお菓子を買いました。出席者二十五名、先生は八名で楽しい一時をすごしました。（七、二六日）  
八月三日には子供日曜学校、第三回目の証し会を行いました。十二名あまりの子供たちが天のお父様に対しての感謝を皆の前で発表しました。

六月の証し会では二名でしたがだんだんと自分の持つて居る証しを小さな子供達がすると言うことはほんとうに喜ばしいことです。  
「子供日曜学校の組織」  
会長 栗 恒 子  
書記 西 原 政 江  
オルガニスト 青 山 方 子  
音楽指導 村 田 陽 子  
教師（最上） 栗 恒 子  
教師（上） 音 森 礼 子  
教師（中） 村 田 陽 子  
教師（下） 引 寺 澄 子  
「活動」  
（中下）ぬり絵、はり絵  
（上）ぬり絵、小さな活動  
（有名な人の物語について発表）  
「七月の子供の出席」  
六日、三十七名、十三日、二十

八名、二十日、四十六名、二十七日、四十九名で概して上のクラスが出席者が多いようです。

(広島) 西原 政江

### 三ヶ月の回顧

#### (一) ダンスパーティー (六月五日)

支部資金を得る為に名古屋市公会堂に於て開きました。名古屋市長が会場費の半額を寄付して下さいました。純益は八万円余りです。この会場にて扶助協会の作りましたネックレスを売りました。よく売れました。

#### (二) パザール (六月二十一日の午後)

扶助協会の主催により当支部で行いました。会員の作りましたエプロン、のれん、ネックレス等と商人により洋服地、下着類等も一緒に売りました。予約品の注文も出来、そして食物としてになりずし、しるこ、ドーナツ、ジュースを食券の前売りをして売り、純益は八千円余でした。

#### (三) MIAの授賞会 (六月二十八日)

支部大会の為に来名された地方部長のバック長老により日坂遜、岩瀬、柳田征史の兄弟達と柳田、八木沼慶子、野田、上田の姉妹達と森本さんの八名の受賞者に賞与えられ、後長老達のタレント発表及びゲームをして楽しい支部のMIA大会の夕べを過しました。

#### (四) 支部大会 (六月二十九日)

テーマ教義と聖約一二四章五十五節により、九時よりバック長老により神権会、ライト姉妹により扶助協会が開会された。また十時三〇分に一般大会が開会された。

「何故神殿が必要か」本島姉妹、「永遠の結婚」伊藤姉妹、「シーリングとエンダウメント」柳田兄弟の話があり、最後に「系図をしらべる事が如何に重要であるか」についてバック長老よりお話がありました。聖餐式は一時三〇分から長老初め兄弟姉妹より強い証詞が述べられました。なお夜七時よりファイアーサイドとしてホリデイ・イン・ジャパンのレコードコンサートを新しいハイファイにて開く事が出来ました。

#### (五) 送別会 (六月二十一日)

パンノイ長老が東京北支部、フ

イリッブス長老が岡町支部、ヘツグ長老が福岡支部へ転任の為。また七月十九日にはアステン長老は三年の伝道期間を過され、八月八日の横浜出航で帰国されるので開きました。アステン長老は良く働いて下さいました。新しく教会堂の椅子、ハイファイブレイヤー、扇風機、塀のつけかえ等新しい品々を持つ事が出来又ダンスパーティー券の売りさばき等色々数え上げで感謝して居ります。

#### (六) 海水浴 (八月九日)

内海海岸へ観光バスで行き楽しい一日を過す事が出来ました。

(七) 評議員の高木兄弟が八月十七日支部訪問され、色々の御指導と良き話を聞く事が出来ました。

(八) MIA 楽しい歌の夕 (八月二十八日)

長老、兄弟、姉妹、求道者の皆さんの歌とウクレレ、ギター等のタレントの発表会があり楽しい一夜を過す事が出来ました。

(名古屋) 松浦 美代子

### 西宮は成長する

ファイヤー・サイド、会員達の

家があまりに離れているため、今まで知らなかったお互いの生活を理解することによって、共に証を保ち続けることが出来るようにと、「自己紹介」をテーマに七月六日に開かれました。家来前が空気を生み出す智慧をどなたか貸していただけませんか。(出席者十四名)

キャンプ。ファイヤーとピクニック、開拓者達のめざましい働きと強い証に、今一度ふれる機会を得んとして、当支部でも七月十九日、昼は仁川に集合し、背後にそびえている六甲を駆けめぐり、夜は浜甲子園にて、打寄せる波音を聞きながら、キャンプ・ファイヤーをかこみました。歌やゲームさてはすいみん術が飛出し、また竹串に付けたウインナ・ソーセージをあぶりながら語り合う機会を得ました。なお翌日の日曜学校でも開拓者をテーマとしたプログラムが組まれました。(出席者二十二名)

日高姉妹を送る、本誌にも既報されたようにアメリカ留学の日も近づいた七月二十日十五名の兄弟姉妹が長老宅に集り、送別会が開かれました。日高姉妹に対す

る感想や、お送りする言葉をそれぞれ述べ、これまでの彼女の働きに感謝し、「また逢いましょう」と言葉をお交わしました。二十六日午前九時、上り特急「つばめ」で沢山の学友や兄弟姉妹に送られながら上京され、八月一日に羽田空港をたたれました。

ファイヤー・サイド、「他支部の状態で働きについて」と云うテーマで開かれました。高橋支部長より「伝道本部について」また帰還宣教師である安芸兄弟から「その当時の伝道事業について」聞きました。それに他の支部を訪問したことのある方々から実情を聞くことよって、私達の支部はどう

あるべきかを考えさせられました。(出席者十名)

オープン・ナイト(八月十九日) 四重唱や独唱など「歌」を中心としたプログラムに、ハイモニカやピアノ等趣味を通じての活動が展開されました。中でもヴァンダイク長老の発案による寸劇には、一同お腹をかかえて爆笑しました。(出席者二十五名)

海水浴、三宮支部主催の須磨海岸への海水浴に、当支部からも四名の兄弟姉妹が参加し、三宮支部独特の家庭的な雰囲気を感じた楽しい一日でした。(西宮)田口広道

## 開拓者記念の夕べ

七月二十三日、一泊の予定で陣屋町体育館でキャンプを致しました(雨の為野外の予定が屋内に変更)。あいにく朝から雨に見舞われましたが、前日訪問された二人の長老を含めて参加者十六名。雨の中を毛布を背おい右手にナベ、カマ、左手に傘、または包と

者の様子に似ていて当時を思い起させました。扶助協会の方々が腕によりをかけて作って下さった夕食を楽しくおいしくいただいたあと、いつものように午後六時半から梅津兄弟の司会により集会が始まりました。まずめかくししてのオニゴッコと二組に分かれてのピンボンの球をのせての競走を大笑

いしながら行いました。

続いて高根、小坂両姉妹から開拓者の歩いた多くの苦難の道についてを熱心に聞き、開拓者の苦しみがしみじみ思われ、私達会員一人一人がこれからあらゆる誘惑や苦難にうち勝ち決意を新たにしました。その後でダンスをしたり、ピンボンをしたりして九時半迄なごやかに楽しく真夏の夜の一時を過ごし、十時には一日を振り返りつつ、ねむりに入りました。

翌日は朝の列車でお勤めに行く人がいますので五時半の起床です。昨日とは違って変わった良い天気です。各自の所持の仕事を終えて朝食です。長老達はじめ会員たちと共に朝食をいただくのは年に一度位故特別においしい感じで楽しかったです。

二三の人々は七時半頃の汽車で帰りましたが残った方々は写真を撮ったり、ボートに乗ったりして時をすごし全員昼前に帰宅致しました。この会の上で終始神の霊が降り注いだ時でありました。心を心から感謝してをります。訪問者、七月二十二日本部からグッドマン長老、新後関長老が訪

聞されました。また大阪の森岡姉妹も旅行の途中に訪ねて下さいました。(室蘭支部)

## 三宮に土地購入

七月二十八日アンドラス行進部長が来神して土地購入契約にサインされた。日本及び全世界の会員の努力の結晶を、長年努力を重ねて多くの支部に先駆け、この小さな支部に与えて下さった天父なる神に感謝すると共に全世界の会員に感謝します。

八月三十一日最後の安息日を迎えて後、指導者会が開かれた。

三宮支部では日曜学校の第二副会長がいなかったため、いろいろな点において少々うまくいっていないが九月末には決定すると発表された。また日曜学校の会長である前芝兄弟より、自分自身の責任について力をこめて一生懸命にやる事と言いつつ、各役員はどんな会に對しても、出席をよくする事を一同と共に誓いあいました。全部の人々が力を合わせてやって行く事によって、兄弟姉妹が多く誕生する事であろうと思う。

また一人の姉妹誕生、七月二十日にまた一人の姉妹が誕生した。これは六月下旬と七月上旬に誕生した土橋道雄兄弟、山口辰子姉妹、山根良弘兄弟に次いで支部が開かれてから第十九番目に当る。いつもより多くの会員友達を迎え「天王川」でバプテスマの式が行われておし田しかえ姉妹が誕生したのである。この日は支部長交代の日

に当たっていたので、帰米するホル長老、後任のプロック支部長、同僚の南東長老の三人から祝福され、おし田姉妹は「こんな大勢の人に来てもらって本當にうれしいわ」と心から全てに感謝していた。少し曇り勝ちな天候だったが、山川の涼しいせせらぎの音と私達の合唱する讚美歌があたりに響き神の祝福を身近に感じることが出来た。聖餐式の時、十七名の求道者と会員に見守られてホル長老によって按手礼が施された。

(三宮) 亀井洋子

## 岡町だより

海水浴八月一日、扶助協会の主催にて二色ノ浜へ遊覧大型バスで

会員、求道者、子供連れで海水浴に行く。建築資金募集の目的を多分に果し得て参加者六十六名、和やかに楽しみ、親睦を増し大成功す。

役員新任、神権会教師、富山高治、子供日曜学校管理者、上野山研次郎、系図委員会教師、中川重信、同ホーム・テーチャイ、岩園

## クリフオード・E・ヤング長老逝去さる

クリフオード・E・ヤング長老は去る八月二十八日に逝去されました。



クリフオード・E・ヤング長老は一九二二年にアメリカに渡り、九四年にクリフオード・E・ヤング長老に任命されました。

クリフオード・E・ヤング長老は一九一三年十二月七日、セイモア・ピックネル博士

滋、同、曾根清、同、中本満、同、富岡康、

オープン・ナイト、八月二十一日夜、MIAオープン・ナイト

「歌の集い」を開く、萬国歌めぐりと題して日本を起点に世界を歌の数々でつづり楽しい夕べを過した。(阪本幾代)

とアンエリザベス・ライター。ヤング姉妹との間に生れ、ユタ大学に学んだ後、一九〇五年英国へ赴き、英国及びドイツで宣教師として活躍しました。

伝道が終って後、彼はユタ州のユタ郡に住み、一九一一年六月二十日、故ヒーパー・J・グラント大管長 天妻の娘であるエデイス・グラントとソルト・レイク神殿で結婚式を挙行しました。

ヤング姉妹は一九四七年にすでに逝去されましたが、御二人の間には五人の子供があります。

ヤング長老は一九一三年アメリカン・フォークのピーブルズ・ス

テート銀行の出納係となり、続いて長年の間この銀行の頭取となり、逝去される時まで、この地位にありました。

彼は五年間ユタ郡出身の州上院議員及び六年間アメリカン・フォーク市の市会議員として働きました。

彼の教会内の活躍も極めて目ざましく、一九二八年にアルバイン・ステイキ部長に任命されるまで、日曜学校及びY・M・MIAの会長、更にY・M・MIAステイキ部管理委員会の会員として働いていました。

## 原稿募集

- 一、支部活動状況 (四百字詰三枚位)
- 一、信仰と証詞 (四百字詰二枚位)
- 一、写真 (集会その他)
- 一、メッセ (毎月月末まで)
- 一、宛先 (伝道本部内編集部)

伝道本部だより (八月三十一日現在)

宣教師移動

ヴィアル・テイラー 京城中央支部長  
 クライン・G. キャンベル 釜山支部  
 ション・R. アダムス 那覇支部  
 ハロルド・L. アシュマン 普天間支部

誕生と祝福

福原まこと (誕生六月二十六日、父福原(中田)俊秋、母福原ハユ子)  
 八月二十四日父の福原兄弟により祝福される(旭川)

結婚

斎藤光政兄弟(仙台)は一九五八年五月三十一日長門フミ子嬢と結婚  
 吉野菊江姉妹(東京北)は一九五七年十一月二十三日野本幸助君と結婚  
 八尋静枝姉妹(福岡)は一九五八年七月二十四日ライデング・M. エドウィン兄弟と結婚

神権授与

職名	氏名	支部
執事	近藤 亘	旭川
執事	白石 正弘	福岡
執事	小谷 憲二	広島
執事	沖村 一夫	広島
執事	土屋 豊彦	松本
祭司	石井 政道	室蘭
祭司	松下 泰弘	札幌
祭司	遠藤 肇	仙台
祭司	本橋 公一	東京
執事	加藤 俊大	東京
執事	安里 弘助	横浜
執事	当真 隆男	那覇
執事	当真 徳任	那覇

この外韓国において新たにアロ  
 ン神権を与えられ執事の職に聖  
 任されたもの八兄弟があつた。

バプテスマ

氏名	支	部
高良 花子	那覇	加川
香月 ハツ	普天	長谷川
宮原 辰起	横濱	丸山
片野 賢一	横濱	奥田
森松 義一	柳井	森下
大畑 こう一	柳井	中田

この外韓国では京城東支部で十一  
 名、釜山支部で五名がバプテスマを  
 とけた。

永遠のウエディング・マーチ

任期を終えて故郷に帰られた宣教師達が、永遠の結婚式を次々と挙げている事が、日本にも知らされて来ている。

マリオン・H. クック兄弟とジャック・O. モルガン兄弟は七月にカナダ神殿でダビド・M. ボデリー兄弟、ハリー・B. ギャンブル兄弟、ルロイ・O. アンダーソン兄弟の三人は八月にアイダホ神殿で、マック・フリー兄弟は九月四日にグレンノン・ベイカー姉妹と結婚、ドナルド・グリーン兄弟は岡町支部の和田ひろ子姉妹と九月二日に結婚、所はロシアでエルス神殿。  
 副伝道部長であったドン・O. ランドバーグ兄弟も六月六日、ソルト・レークにてジョニヤ・アン・エモリ姉妹と結婚した皆知らされて来ている。

# 詩藻

投稿歓迎!

## 生命の道しるべ

トノウアン・H・ワルゼン  
村田陽子訳

暗に見える道

その激しき流れに身をまかせ  
はむこう力の少い所に流れ行き

無益な川をさまよって

歳月を要する艱難を避け

神の大なる永遠の栄えの

力強い生命の道しるべを

見のがして流れ去って行く者がある

堅固に歩く聴き人々

より高きいとなみ求めて、

つらき道を登って行き

数知らない災を、もがき戦い

真の徳、高きもの求めて打ち戦う

幾多の災は、真の人となりを作り上げて行き

もやの上に、高く彼等を上げてくれる

神に逢う様、ようなす

心の向くまま流れにまかせ

無益な流れを選ぶ者

彼等は逃れざる弱さを身につけ

流れるまま深みに入って行く

だが己のが報いを返り見ず

真直ぐに進んで行く者

彼等は密きの日の只中で

彼等の偉大な力を悟るであろう

\*\*\*\*\*  
短歌  
\*\*\*\*\*

## 主よ共に

横浜渡部正雄

主よ共に 今日一日を 守りませ

昇る朝日や さえずる小鳥

主よ共に 今宵も我家に 宿りませ

月の光や 虫の音あわれ

## わが夢

東京北高木とみごろう

あれ見給え 駅の彼方の岡の上に

神殿のいらか光る夢見し

選ばれし万人の望徒たち

この極東につどう日遠からず

内 容 目 録

教義と聖約・高価なる真珠・モルモン経合本	1100円
教義と聖約・高価なる真珠	300円
モルモン経 (新訳)	300円
新旧約聖書 (口語体・文語体)	300円
回復された神の教会 (神権会用)	150円
完成への道	200円
初等協会教科書	150円
扶助協会手引	50円

日 曜 学 校

福音の実践	150円
古代アメリカの生活	100円
聖典中の指道者	150円
霊的成長(2)	150円
新求道者のための福音の根本原則	25円
家督権の祝福	100円

M I A

役員指導者の手引	100円
我等の指導者の言葉・福音と生活	100円
モルモンとは	100円
演劇指導者基礎知識と脚本集	75円
演説が上手になる法	150円
社交ダンス必携	160円
楽しいホーク・ダンス	50円

讚美歌及び歌集

末日聖徒讚美歌	300円
末日聖徒讚美歌抜萃	30円
子供は歌う	100円
レクリエーション歌集	400円

註文は各支部長へ

編 集 言

◎「聖徒の道」が月を追うて整備されているのは皆さんも認めて下さるでしょう。この進歩の傾向をますます前進せしめるには何時も申すように皆さんの御協力を第一と致します。

◎最近各方面からの投書が不活潑になって来た。各支部において「聖徒の道係り」が選ばれたでしようか、まず第一に「信仰と証詞」の投稿が少なくなつた。第二に「各支部の活動」が充分に報告されなくなつた。これは協力体制の後退ではないでしようか。

◎ブランチ・テイーチングに、不活潑会員を訪問した場合、「聖徒の道」を呈上することなど、支部神権会などで御相談願ひたいものと思ひます。

聖徒の道 第二卷十月号  
一九五八年十月一日発行  
定価一ケ年三百円 一部三十円  
編集兼 ポール・C・アンドラス  
発行人  
発行所 東京都港区麻布広尾町十四  
末日聖徒イエス・キリスト教会  
北 部 極 中 伝 道 部

聖徒の道

一九五八年三月十七日  
第三種郵便物認可第二卷第十号  
一九五八年十月一日発行

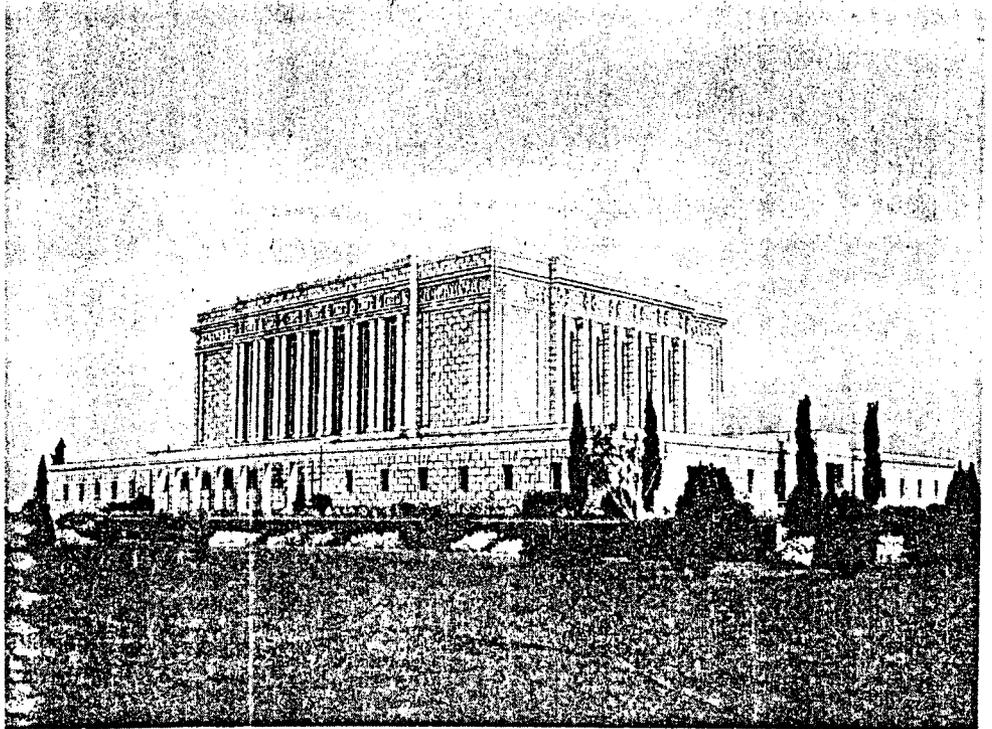
発行所  
編集人

ポール・C・アンドラス

発行所

末日聖徒イコズ・キリスト教会  
北極東部

東京都港区麻布広尾町



1927年10月23日にアリゾナ神殿は献納された。この日ヒーバー・J・グラント大管長が聖徒の聖会に於て献納の祈りを捧げ、また教会の最高幹部の殆んどもこの式に参加した。

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可(毎月一回一日発行)  
第二卷第十号一九五八年十月一日発行